

## ＜ 完成報告書検討結果（帝塚山大学心理福祉学部） ＞

### [1] 概評

2007（平成 19）年度の本協会による大学評価に際し、貴大学心理福祉学部は、評価資料を提出する 4 月段階において申請資格充足年度（標準修業年限＋1 年）を経ておらず、教育・研究活動に関する評価を十全には行えなかった。よって当該学部の完成時の状況を、完成報告書として取りまとめることを求めた。

今回提出された完成報告書からは、同学部は 2004（平成 16）年 4 月に心理学科と地域福祉学科の 2 学科体制で開設され、「現代社会に生きる人間を総合的に教育・研究すること、とりわけ心理学と地域福祉の立場から『人間と心』『人間と社会』の諸問題の理解と解決に向けてアプローチすること」を目的としていることが認められた。両学科とも適切な教育目標、教育組織を整備しているが、2011（平成 23）年度から地域福祉学科の募集を停止したことにより、学部名を心理福祉学部から「心理学部」と改称している。

教育課程は「教養科目」「外国語科目」「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門関連科目」などからなり、体系的に構成されている。地域福祉学科では「社会福祉士」「精神保健福祉士」の受験資格が得られる教育課程となっている。

導入教育についても、心理学科で入学直後に合宿オリエンテーションを実施し、アドベンチャーカウンセリングをプログラムに組み込むなど、履修指導を兼ねて意欲的に行われている。

履修指導、年間の履修登録単位数の上限設定（48 単位）、授業評価アンケートのフィードバックやその結果公表、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動、シラバスの整備などは相応に整備され、適切である。

以上のことから、目標はおおむね達成されていると判断される。

### [2] 今後の改善経過について報告を求める事項

なし

以 上

## 〈 完成報告書検討結果（帝塚山大学現代生活学部） 〉

### [1] 概評

2007（平成 19）年度の本協会による大学評価に際し、貴大学現代生活学部は、評価資料を提出する 4 月段階において申請資格充足年度（標準修業年限＋1 年）を経ておらず、教育・研究活動に関する評価を十全には行えなかった。よって当該学部の完成時の状況を、完成報告書として取りまとめることを求めた。

今回提出された完成報告書からは、同学部は「現代生活や文化に対する確かな認識を基盤として、現代に生きる人々が豊かで健全な生活を送るために必要な知識と技術を探求し、それらを社会に還元できる専門的職業人の養成」を教育目標として、2004（平成 16）年 4 月に「食物栄養学科」「居住空間デザイン学科」「こども学科」の 3 学科を設置しており、教育目標を達成するべく必要な教育が実施されていることが確認できた。

カリキュラムは体系的に編成され、共通教養科目と専門科目で体系的に編成されており、教養科目や外国語科目もバランスよく配置され、適切である。

履修指導については、前期と後期に行い、シラバスなどについても相応に整備されている。ただし、年間履修登録単位数の上限が、2009（平成 21）年度以降の入学者についてみても、1～3 年次は 48 単位であるものの、4 年次では 58 単位と高くなっているため、単位制度の趣旨に照らして改善が望まれる。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）については、FD 推進室の主催により、「学生による『授業改善アンケート』」が前期と後期に各 1 回実施されて、フィードバックも相応に行われている。FD 活動の一環として「FD 推進室で選出した講義の公開授業との検討会（前期）、全教員による公開授業週間（後期）」が実施されていることは評価できる。

以上のことから、年間履修登録単位数の上限設定に問題が見受けられるものの、目標はおおむね達成されていると判断される。

### [2] 今後の改善経過について報告を求める事項

なし

以 上